

文部省選定 産業映画ビデオコンクール産業映画賞 第9回日本産業文化映像祭科学技術庁長官賞 第37回国際産業映画・ビデオ祭入賞・技術研究開発部門第2位 1997年国際シンディコンペティション(アメリカ・サンディエゴ) 医学部門金賞 第35回日本紹介映画・ビデオコンクール優秀作品賞 日本医師会推薦

近年、多くの研究者や医学関係者の注目を集めている「アポトーシス」について最先端の研究をまじえながらわかりやすく伝える。

■協力

須田貴司 田中正人 近藤 亨 江成政人 足立昌司 渡辺大介
高橋智裕 (大阪バイオサイエンス研究所第一研究部)
平峯千春 (香川医科大学免疫病理学)
落合孝広 (国立がんセンター分子腫瘍学部)
宗像信生 (国立がんセンター放射線研究部)
辻 守史 (埼玉医科大学第一内科)
山本直樹 (東京医科歯科大学微生物学)
大阪バイオサイエンス研究所
放射線医学総合研究所
埼玉医科大学



「アポトーシス」とは、細胞が自ら死を選ぶ現象で私たちの生命を維持していく上で、また体を維持していく上でも大切な役割を果たしている。細胞の生命現象そのものといえるアポトーシス。臨床研究においては、「癌」や「自己免疫疾患」などいくつもの疾患とのかかわりが指摘されている。

映画は、アポトーシスを誘導する情報伝達を担っている細胞表面の分子である Fas を中心に、細胞の死「アポトーシス」の現象を顕微鏡映像でつぶさに捉え、アポトーシスが生命活動に重要な役割をしていることを明らかにする。細胞の「死」から生命の不思議に迫るとともに、そうした研究が医療にもたらすものを考えていく。

記録
フィルム
カラー／18分
日・英・中国語版

- 企画
中外製薬株式会社
- 監修
平嶋邦猛 (埼玉医科大学教授)
浅野茂隆 (東京大学医科学研究所教授)
長田重一 (大阪バイオサイエンス研究所第一研究部部长)
- 指導
山田 武 (東邦大学教授)
大山ハルミ (放射線医学総合研究所)
別所正美 (埼玉医科大学助教授)

スタッフ

- 製作
村山英世
- 脚本・演出
花崎 哲
森 吉美
- 応援(手技)
高崎理香
武内有子
- 顕微鏡撮影
鈴木博之
新藤多門
- 実景撮影
西川浩史
山屋恵司
- ネガ編集
加納宗子
- 線画
河原三郎
- 選曲
山崎 宏
- 録音スタジオ
東亜映像録音
- 現像
ソニー-PCL
- 解説
江守 徹